

1.診療科紹介（専攻医・後期研修医向け）

項目	内容
① 診療科名	耳鼻いんこう科・頭頸部外科
② 診療科の特徴	内科系診療・外科系診療の融合とバランス
③ 診療科のモットー	令和の改革
④ 診療内容・実績 (年 月時点)	別紙
⑤ 診療体制 (年 月時点)	別紙
⑥ 診療科カンファレンス	月曜日 午後15-16時
⑦ 経験できる疾患	難聴・めまい・花粉症・咽喉頭癌・救急
⑧ 経験できる技術・技能	別紙
⑨ 学会について	別紙
⑩ その他	

2.専門研修プログラムに準拠しない形での採用の場合

項目	内容
① 取得可能な専門医	
② その他	

3.連携施設として専門研修プログラムで採用の場合

項目	内容
① 基幹施設	名古屋大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科
② 取得可能な専門医	耳鼻咽喉科専門医
③ その他	

4.指導責任者より専攻医・後期研修医へメッセージ

内科系診療の好きな先生・外科系診療を極めたい先生のどちらも必要です。

on と off をつけたい・公私をはっきりしたい先生、ウェルカムです。

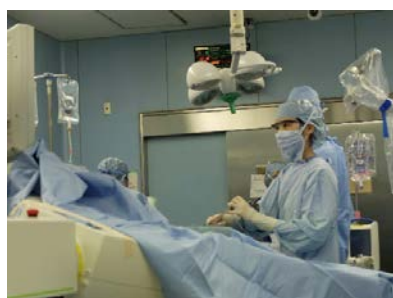
音楽を聴いたり、歌ったりしたい先生、コミュニケーション障害に興味のある先生、奥が深いです。

家業が耳鼻咽喉科の先生、代々賢明な選択をされています。

研究に未開拓分野がたくさん残っています。

後期研修医募集

耳鼻咽喉科は近年国内外で耳鼻咽喉科・頭頸部外科と呼称されるようになってきました。当科は地域の基幹病院として機能しており、耳、鼻、のど、頸部に関わる炎症性・腫瘍性の病気および機能障害を対象とし、あらゆる耳鼻咽喉科・頭頸部外科疾患に対応することを目標に先進的知識と技術で質の高い医療水準を目指しています。当科は現在常勤医5名、非常勤医1名で診療にあたっており多忙ながらも充実した毎日です。生活にon/offがあり夏期には交代で長期バカンスを楽しめます。



<<手術風景>>

令和1年度の耳鼻咽喉科・頭頸部外科の手術数は中央手術室341名(533件)・外来その他80件・総計613件でした。主な手術は内視鏡下鼻副鼻腔手術(FESS)124例、鼻甲介切除術(含む粘膜下)130例、口蓋扁桃・アデノイド手術82例、鼻中隔矯正術28例、鼓室形成術16例、鼓膜形成術16例、ラリンゴマイクロ(喉頭微細)16例、唾液腺腫瘍37例、骨折整復10例などでした。

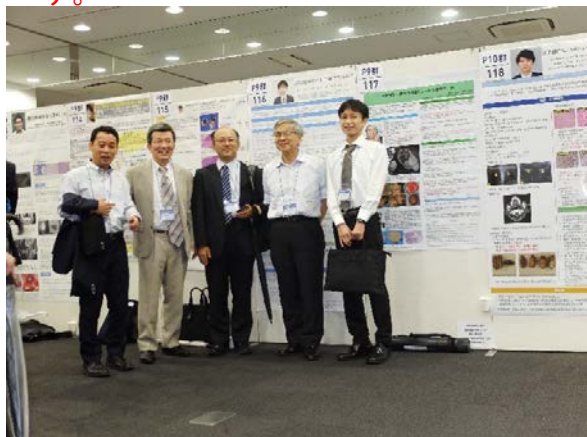
当科では内視鏡による治療に力を入れ鼻副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、真珠腫性中耳炎、鼓膜穿孔などに対して侵襲の少ないFESS(functional endoscopic sinus surgery)、TEES(transcanal endoscopic ear surgery)を施行しています。外来ではファイバースコープ下に異物摘出、声帯ポリープ切除を行っています。また内視鏡下鼻副鼻腔手術V型(拡大鼻副鼻腔手術)の数少ない認定施設であり、サージカルナビゲーションを用いて脳神経外科や眼科とともに下垂体腫瘍や眼窩内病変に対する手術やチーム医療を実践しています。

将来の後継者の育成は長期計画の柱であり、良好な治療成績とともに両輪の目標です。この目的を達成するためできるだけ研修医・レジデントに手術・処置・2次救急を体験させ、上級医が必要十分な介入をすることで後継者の育成を計っています。専門医レベルの卒後教育は当科診療レベルのボトムアップおよび研修医・レジデントの診療技術の進歩につながり、ひいては良好な治療成績に直結します。



<<クリスマス>>

従来の専門領域の垣根を取り払って毎週月曜日には放射線治療科とのカンファレンスで高い医療水準を維持しています。リハビリテーション部とも聴覚・嚥下を中心に密接なチーム医療連携が形成され、当院ならではのノウハウが随所にあり、それによって医療レベルが維持され進歩しています。東京医療センターなどわが国最大の病院グループNHOのネットワークを生かして政策医療研究を多施設で行っています。



<<耳鼻臨床学会>>

耳鼻咽喉科専門後期研修プログラムの概要

- プログラムの名称

- ① 名古屋大学医学部附属病院耳鼻咽喉科専門研修プログラム

- 研修開始時期と期間

- ① 4年間（202X年4月～202X+4年3月）

- 研修コース募集総人員

9名 7コース

AからGコース（原則として1つのコースにつき2名を上限とする）

- 施設群：下記の3群に分けて研修を行う。

- 名古屋大学医学部附属病院
- a群：HNO名古屋医療センター、名古屋第一赤十字病院、刈谷豊田総合病院、中部ろうさい病院、小牧市民病院、市立半田病院、県立多治見病院、公立陶生病院、トヨタ記念病院、岡崎市民病院、稲沢市民病院、常滑市民病院、西知多総合病院、名古屋セントラル病院、津島市民病院、松波総合病院、関連2施設（JCHO中京病院、西尾市民病院）
- b群：愛知県がんセンター病院、あいち小児保健医療総合センター、国立長寿医療研究センター

- 基本的研修プラン

- 原則として4年間の研修期間中に少なくとも2施設以上の関連研修施設で研修を行うこととする。

<<ワンポイントアドバイス>>

※※名大耳鼻咽喉科プログラムは人気があり、進路意思表示を9月にするよりも、前期研修の2年目の春夏にプログラム参加の意志表明をした研修医の方が進路とコース選択幅が広がると思います。

- 研修7コース例（A～G：別添で名古屋大学医学部附属病院耳鼻咽喉科後期専門研修プログラムを掲示）

- 当院での基本的経験：当院での1年間の平均症例数（カッコ内は4年間に必要な数）。何がどのくらいできる？何が少なく、できない（×）か？

(1) 専門医研修における指導医・病院設備：指導医の資格と指導体制は必要十分。

病院の診療科目・基準は必要十分。

(2) 領域別の手術経験：術者あるいは助手として手術の最初から最後まで体験する

(症例数年間平均は 2006-2017 年の平均値)

- ✓ 耳科手術 86.9 例 (20 例以上) 内視鏡下中耳手術 (他施設にあまりない、研修 3-4 年目向き)、鼓膜形成術(研修 3-4 年目向き)、アブミ骨手術 4.25、×人工内耳埋込 0.25、×顔面神経減荷術 0.88
- ✓ 鼻科手術 413.5 例 (40 例以上) 後鼻神経切断術 (他施設にあまりない、研修 3-4 年目向き)、内視鏡下鼻副鼻腔手術 V 型 (他施設にあまりない、施設届け出制度)、トリクロール酢酸塗布 (他施設にあまりない、研修 1-2 年目向き)
- ✓ 口腔咽喉頭手術 182.7 例 (40 例以上) 扁桃摘出術 105.7 (15 例以上) 、舌、口腔、咽頭腫瘍摘出術等 14.7 (5 例以上) 喉頭微細手術 46.7 (15 例以上)、×嚥下機能改善手術・誤嚥防止手術 2.0 (5 例以上)、
- ✓ ×頭頸部腫瘍摘出術 (唾液腺、喉頭、頸部腫瘤等) 24.0 例 (20 例以上)、×頸部郭清術 6.0 (10 例以上)

(3) 個々の手術経験：術者として手術の最初から最後まで体験する。

- ✓ 扁桃摘出術・アデノイド切除術 105.7 例 (術者として 10 例以上)：1 年で達成可能
- ✓ 鼓膜チューブ挿入術 17.3 例 (術者として 10 例以上)：▲少子化で減少中
- ✓ 喉頭微細手術 46.7 例 (術者として 10 例以上)
- ✓ 内視鏡下鼻副鼻腔手術 172.9 例 (術者として 20 例以上)：1 年で達成可能
- ✓ 気管切開術 17.6 例 (術者として 5 例以上)：1 年で達成可能
- ✓ 良性腫瘍摘出術 (リンパ節生検を含む) 44.6 例 (術者として 10 例以上)

※したがって当院のみで約 9 割の手術の経験数は達成可能。

(4) 検査の経験：嚥下 Videofluoroscopy Videoendoscopy (多い：研修 1-2 年目向き)、頸部超音波 (研修 1-2 年目向き)、ファイバー下生検 (多い：研修 1-2 年目向き)、赤外線 Frenzel 眼振 (多い：研修 1-2 年目向き)、ABR (聴性脳幹反応)、ASSR (聴性定常反応)、×重心動揺計、×音声機能検査装置、×基準嗅覚検査、×顔面神経 ENoG (研修 1-2 年目向き)
(×：機器未整備)

※参考のため名古屋大学医学部附属病院耳鼻咽喉科専門研修プログラムを示す。

□後期研修医採用実績（新専門医制度以降）

●2020年度

内科専門研修プログラム（当院プログラム）	7名（うち3名は連携施設で研修開始） （+1名他院プログラムより移動）
外科専門研修プログラム（当院プログラム）	1名
眼科専門研修プログラム（当院プログラム）	1名
麻酔科（連携施設プログラム）	1名
皮膚科（連携施設プログラム）	1名
小児科（連携施設プログラム）	1名
耳鼻咽喉科（連携施設プログラム）	1名

●2019年度

内科専門研修プログラム（当院プログラム）	5名
総合診療プログラム（連携施設プログラム）	1名
外科専門研修プログラム（当院プログラム）	2名
脳神経外科専門研修プログラム（連携施設プログラム）	3名
耳鼻咽喉科専門研修プログラム（連携施設プログラム）	1名

【2021年度名古屋大学医学部附属病院耳鼻咽喉科専門研修プログラム】

◎プログラムの名称

名古屋大学医学部附属病院耳鼻咽喉科専門研修プログラム

◎プログラムの目的

耳鼻咽喉科医師としての人格の涵養に努め、耳、鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭、頭頸部の全ての領域において幅広い臨床能力を習得し、「国民に良質で安心な標準的医療を提供できる」専門医を育成することを目標とする。

◎プログラム指導医（専門領域）と基幹研修施設

プログラム責任者：曾根 三千彦（教授・診療科長）（耳）

指導管理責任者：寺西 正明（准教授）（鼻・副鼻腔）

指導医：吉田 忠雄（講師）（耳）

丸尾 貴志（助教）（頭頸部）

西尾 直樹（助教）（頭頸部）

専門医：杉本 賢文（助教）（耳）

向山 宣昭（助教）（頭頸部）

小林 万純（助教）

◎関連研修施設と連携施設（専門領域）

○関連研修施設（専門領域）

NHO 名古屋医療センター

指導管理責任者：三澤 逸人（耳、鼻・副鼻腔）

指導医：加藤 健（耳、聴覚医学）

専門医：森永 麻美（口腔咽喉頭）

名古屋第一赤十字病院

指導管理責任者：柘植 勇人（耳、頭頸部）

指導医：寺田 聡広（頭頸部）

専門医：鈴木 淳志（頭頸部）

中部ろうさい病院

指導管理責任者：指導医：佐藤 栄祐（耳）

小牧市民病院

指導管理責任者：横井 久（頭頸部）

指導医：須賀 研治

専門医：福井 志保

半田市立半田病院

指導管理責任者：富永 光雄

県立多治見病院

指導管理責任者：岩田 知之

公立陶生病院

指導管理責任者：杉浦 真
トヨタ記念病院

指導管理責任者：古田 敏章
岡崎市民病院

指導管理責任者：都築 秀典
稲沢市民病院

指導管理責任者：八木 英仁
常滑市民病院

指導管理責任者：岩垣 俊憲
公立西知多総合病院

指導管理責任者：大嶋 久和
名古屋セントラル病院

指導管理責任者：山本 浩志
津島市民病院

指導管理責任者：安江 穂
松波総合病院

指導管理責任者：永井 裕之
愛知県がんセンター病院

指導管理責任者：鈴木 秀典（頭頸部）

指導医：西川 大輔（頭頸部）

あいち小児保健医療総合センター

指導管理責任者：江崎 友子（耳、聴覚医学）

国立長寿医療研究センター

指導管理責任者：鈴木 宏和（感覚器）

○関連施設

JCHO 中京病院

指導管理責任者：小出 悠介

西尾市民病院

指導医：田中 宏明

◎募集定員：9名

◎研修開始時期と期間

2021年4月1日～2025年3月31日。

研修を行う関連研修施設および研修時期・期間は、専攻医ごとに適宜変更がある。

専攻医室：あり（他の教室員と同じ部屋を用意している。）

健康管理：定期健康診断 年 1回

外部の研修活動：学会、研修会等への参加 可

参加費用支給の有無 年 1回まで有

応募方法・応募資格：臨床研修終了登録証を有すること（第 98 回以降の医師国家試験合格者のみ必要。2021 年 3 月 31 日までに臨床研修を終了する見込みの者を含む。）

一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会（以下「日耳鼻」という。）の正会員であること（2021 年 4 月 1 日付けで入会する予定の者を含む。）

選考方法：書類審査および面接

応募日程：日本専門医機構の日程に準ずる、二次募集あり

（日本専門医機構ホームページを参照のこと）

選考日程・場所：日程は適宜、名古屋大学医学部耳鼻咽喉科学講座応募書類：願書、希望調査票、履歴書

◎問い合わせ先および提出先：

〒466-8550 愛知県名古屋市昭和区鶴舞町 65 名古屋大学 医学部 耳鼻咽喉科学講座

◎プログラムの概要

基幹研修施設である名古屋大学医学部附属病院と関連研修施設において、それぞれの特徴を生かした耳鼻咽喉科研修を行い、日耳鼻研修到達目標や症例経験基準に掲げられた疾患や手術を経験する。また、プログラムに定められた研修の評価は施設ごとに専攻医、指導医、プログラム責任者で実施し、4 年間の研修終了時にはすべての領域の研修到達目標を達成する。さらに、4 年間の研修中、認定されている学会での発表を最低 3 回は行う。また、筆頭著者としての論文執筆・公表を学術雑誌に最低 1 編は行う。研修の評価や経験症例は日耳鼻が定めた方法で登録する。

◎施設：下記の 3 群に分けて研修を行う。

- 名古屋大学医学部附属病院
- 関連研修施設 a：HNO 名古屋医療センター、名古屋第一赤十字病院、刈谷豊田総合病院、中部ろうさい病院、小牧市民病院、市立半田病院、県立多治見病院、公立陶生病院、トヨタ記念病院、岡崎市民病院、稲沢市民病院、常滑市民病院、西知多総合病院、名古屋セントラル病院、津島市民病院、松波総合病院（16 施設）、関連施設：JCHO 中京病院、西尾市民病院（2 施設）
- 関連研修施設 b：愛知県がんセンター病院、あいち小児保健医療総合センター、国立長寿医療研究センター（3 施設）

◎基本的研修プラン

- 1 年目（2021 年度）：名古屋大学医学部附属病院、関連研修施設 a の施設で研修
- 2 年目（2022 年度）：名古屋大学医学部附属病院、関連研修施設 a の施設で 6 ヶ月～12 ヶ月の研修
- 3 年目（2023 年度）：名古屋大学医学部附属病院、関連研修施設 a、b いずれかの施設で 6 ヶ月～12 ヶ月の研修
- 4 年目（2024 年度）：名古屋大学医学部附属病院、関連研修施設 a、b いずれかの施設で 6 ヶ月～12 ヶ月の研修なお、原則として 4 年間の研修期間中に少なくとも 2 施設以上の関連研修施設で研修を行うこととする。

◎研修コース例

1. Aコース

1年目	2年目	3年目	4年目
名古屋大学医学部附属病院	関連研修施設 a または名古屋大学医学部附属病院		

2. Bコース

1年目	2年目	3年目	4年目
関連研修施設 a		関連研修施設 a (1,2年目と異なる施設) または名古屋大学医学部附属病院	

3. Cコース

1年目	2年目	3年目	4年目
関連研修施設 a	関連研修施設 a (1年目と異なる施設) または名古屋大学医学部附属病院		

4. Dコース

1年目	2年目	3年目	4年目
関連研修施設 b	関連研修施設 a	関連研修施設 a (2年目と異なる施設) または名古屋大学医学部附属病院	

5. Eコース

1年目	2年目	3年目	4年目
関連研修施設 a	関連研修施設 a (1年目と異なる施設) または名古屋大学医学部附属病院	愛知県がんセンター病院	

6. Fコース

1年目	2年目	3年目	4年目
関連研修施設 a	関連研修施設 a (1年目と異なる施設) または名古屋大学医学部附属病院	愛知県がんセンター病院	

7. Gコース

1年目	2年目	3年目	4年目
関連研修施設 a	関連研修施設 a (1,2年目と異なる施設) または名古屋大学医学部附属病院	関連研修施設 b	

研修カリキュラム（例：Bコース）

期間：2021年4月1日～2023年3月31日

研修施設：関連研修施設 a（名古屋医療センター、名古屋第一赤十字病院、刈谷豊田総合病院、中部労災病院、小牧市民病院、市立半田病院、県立多治見病院、公立陶生病院、トヨタ記念病院、岡崎市民病院、稲沢市民病院、常滑市民病院、西知多総合病院、名古屋セントラル病院、津島市民病院、松波総合病院、関連施設（中京病院、西尾市民病院））

GIO(一般目標)：地域の中核病院において、耳鼻咽喉科領域の代表的な疾患に対する診断および治療の実地経験、また各種の耳鼻咽喉科疾患に対する実地経験を深め、自らが診断および治療方針決定を行う。また地域医療の現場を体験することで耳鼻咽喉科医療のニーズと役割を理解する。

SBOs (行動目標)：基本姿勢・態度 研修

達成目標（基本姿勢・態度）：#1-21 基本的知識

研修達成目標(耳)：#22-28,34

研修達成目標(鼻・副鼻腔)：#44-49,

研修達成目標（口腔咽喉頭）：#65-75

研修達成目標（頭頸部）：#89-94 基本的診断・治療

研修達成目標(耳)：#29-33,35-41,43 研修達成目標(鼻・副鼻腔)：

#50-64 研修達成目標（口腔咽喉頭）：#76-79,81-88

研修達成目標（頭頸部）：#95-110

経験すべき治療など：

扁桃摘出術を術者として 10 例以上経験する。

鼓膜チューブ挿入術を術者として 10 例以上経験する。

喉頭微細手術を術者として 10 例以上経験する。

内視鏡下鼻副鼻腔手術を術者として 20 例以上経験する。

気管切開術を術者として 5 例以上経験する。

良性腫瘍摘出術（リンパ節生検を含む。）を術者として 10 例以上経験する。

経験すべき検査など：

標準純音聴力検査 5 例以上、標準語音聴力検査 3 例以上、ティンパノメトリー3 例以上、
自記オージオメトリー3 例以上、耳音響放射検査 3 例以上
平衡機能検査：頭位および頭位変換眼振検査 5 例以上、温度眼振検査 5 例以上、視運動
性眼振検査と指標追跡検査 5 例以上、耳管機能検査 3 例以上
鼻アレルギー検査（鼻汁細胞診）5 例以上
鼻咽腔・喉頭内視鏡検査 10 例以上
嗅覚検査（静脈性嗅覚検査）3 例以上、鼻腔通気度検査 3 例以上
味覚検査（電気味覚検査、ろ紙ディスク法）3 例以上

研修内容 専攻医は指導医とともに、外来診療と病棟診療を行う。夜間や休日の当直を行い、各種の救急疾患に対応する。

症例カンファレンス（週 1 回）・手術カンファレンス（週 1 回）・その他施設により他科・他職種との合同カンファレンス、医療倫理、医療安全、感染対策に関する講習会にそれぞれ年 1 回以上出席する。

◎学会または研修会に参加し、日耳鼻が定めた学会において年 1 回以上発表を行う。

◎筆頭著者として学会雑誌に 1 編以上の論文を執筆する。

★名古屋医療センター

研修内容は耳鼻咽喉科の代表的疾患の診断とその対応に重点を置く。耳、鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭、頭頸部のコモン・ディジーズの病態を理解する。専攻医は外来および入院患者の診療を指導医とともに複数主治医制で行う。カンファレンス（週 1 回）に加えて毎日朝夕、指導医や上級医と情報を共有する。

言語聴覚士と嚥下カンファレンス（週 2 回）。

耳科手術（内視鏡下手術を含む）、鼻科手術（内視鏡下手術を含む）、咽喉頭・頭頸部手術、めまい外来、耳鳴外来に参加し指導医や上級医と複数主治医制で情報を共有する。

スタンダードプリコーション・PPE など感染症対策の基本を確実に身につけ、実践する。

日耳鼻が定めた学会において年 1 回以上発表を行う。

筆頭著者として学会雑誌に 1 編以上の論文を執筆する。

★名古屋第一赤十字病院

研修内容は耳鼻咽喉科主要疾患の対応を習得することが中心となる。

耳鼻咽喉科の一般外来疾患と救急疾患の初期対応、主要疾患の入院対応が身につくことを目指す。

口蓋扁桃、アデノイド手術、鼻副鼻腔内視鏡手術等のほか、補聴器、耳鳴り、頭頸部腫瘍について学ぶことができる。

専門外来として補聴器/耳鳴。

頭頸部カンファランスを定期開催している。

★刈谷豊田総合病院

研修内容は耳鼻咽喉科のプライマリー疾患の診断と対応、および口腔咽喉頭手術、鼻副鼻腔手術経験を積むことに重点を置く。

専攻医は外来および入院患者の診療を行う。入院患者は疾患の病態や経過を適切に評価・管理し、退院の判断を行う。

放射線治療カンファレンス（火曜日 17:00～17:30）入院患者カンファレンス（火曜日 17:30～19:00）手術予定患者のカンファレンス（火曜日 19:00～20:00）

SAS カンファレンス（水曜日 16:30～17:00）

医療倫理、医療安全、感染症対策に関する講習会にそれぞれ年 1 回以上出席する。学会または研修会に参加し、日耳鼻が定めた学会において年 1 回以上発表を行う。

筆頭著者として学会雑誌に 1 編以上の論文を執筆する。

★中部ろうさい病院

研修内容は耳鼻咽喉科の代表的疾患の診断とその対応に重点を置く。

専攻医は指導医とともに、外来診療と病棟診療を行う。夜間や休日の当直を行い、各種の救急疾患に対応する。

院内症例カンファレンス（週 1 回）術前・術後カンファレンス（週 1 回）医療倫理、医療安全、感染対策に関する講習会にそれぞれ年 1 回以上出席する。

学会または研修会に参加し、日耳鼻が定めた学会において年 1 回以上発表を行う。

★小牧市民病院

耳科、鼻科、口腔咽頭、頭頸部手術

★市立半田病院

先天性耳瘻管摘出術、鼓膜形成術、乳突洞開放術、鼻茸摘出術、鼻骨骨折整復術、気管切開術、膿瘍切開術、深頸部膿瘍手術、嚢胞摘出術、外傷手術、視神経管開放、喉頭形成術等の手術も行っている。

★県立多治見病院

特定の医療現場の経験

①救急医療

めまいの検査と診断および治療出血の診断と止血処置急性炎症による発熱、咽頭痛、嚥下痛、呼吸困難の対する診断と治療食道異物、気管異物および各種異物に対する診断と治療顔面外傷の診断と処置

②更生医療に対する経験

身体障害（聴覚、音声言語、嚥下咀嚼障害、平衡障害）に対する評価と診断 更生相談における書類の作成についての理解

③緩和・終末期医療 頭頸部癌患者およびその家族に対しての全人的な対応 緩和ケアへの参加

スケジュール：毎日午前 8 時 30 分から外来にて検討会。年間 2 回名古屋大学にて症例検討会（鶴舞耳鼻科会）。年 3 回地域の耳鼻科研修会への参加。週間予定：月曜日 午前 外来実習 午後 各種検査見学火曜日 午前 病棟回診 午後 手術見学水曜日 午前 手術見学 午後 手術見学木曜日 午前 外来実習 午後 各種検査見学金曜日 午前 病棟回診 午後 手術見学。入院患者カンファレンス（火曜日）嚥下合同カンファレンス（言語聴覚士、神経内科など、月 1 回）研修中に研究会あれば参加を勧めている。

★トヨタ記念病院

耳鼻咽喉科の主要疾患の診断とその対応に重点を置く。
夜間や休日の救急当直と耳鼻科の待機を行い、緊急疾患に対応できるようにする。
院内症例カンファレンス（週 1 回）術前・術後カンファレンス（週 1 回）放射線治療カンファレンス（随時）救急疾患症例カンファレンス（週 2 回）モーニングセミナー（週 2 回）有名講師の招待講演（月 1 回）医療倫理、医療安全、感染対策に関する講習会にそれぞれ年 1 回以上出席する。
院内の他科の講習会にも積極的に参加し、他科疾患の理解を深める。
学会または研修会に参加し、日耳鼻が定めた学会において年 1 回以上発表を行う。

★稲沢市民病院

研修内容は耳鼻咽喉科のプライマリー疾患の診断とその治療に重点を置く。
夜間や休日の当直を行い、各種の救急疾患に対応する。
院内症例カンファレンス（毎日）術前・術後カンファレンス（週 1 回）医療倫理、医療安全、感染対策に関する院内研修会にそれぞれ年 1 回出席する。
学会や研修会に参加し、日耳鼻が定めた学会において年 1 回以上発表を行う。
災害対応に準じた救急医療（年 1 回・国府宮はだか祭り）
睡眠時無呼吸および補聴器の特殊外来への参加

★岡崎市民病院

研修内容は耳鼻咽喉科全般の診断とその対応に重点を置く当施設は 3 次救急病院であり耳鼻咽喉科疾患の救急に対する対応が学べる症例手術前カンファレンス（週に 1 回）言語聴覚士と嚥下カンファレンス（月に 1 回）放射線治療科カンファレンス（月に 1 回）病棟看護師とカンファレンス（週に 1 回）
学会または研修会に参加し、学会発表年に 1 回行う。

★公立陶生病院

研修内容は耳鼻咽喉科のプライマリー疾患の診断と対応、および口腔咽喉頭手術、鼻副鼻腔手術経験を積むことに重点を置く。
専攻医は外来および入院患者の診療を行う。入院患者は疾患の病態や経過を適切に評価・管理し、退院の判断を行う。
入院患者カンファレンス（月曜日 15:30～16:00）
手術予定患者のカンファレンス（月曜日 16:00～17:00）
医療倫理、医療安全、感染症対策に関する講習会にそれぞれ年 1 回以上出席する。学会または研修会に参加し、日耳鼻が定めた学会において年 1 回以上発表を行う。
筆頭著者として学会雑誌に 1 編以上の論文を執筆する。

★常滑市民病院

研修内容は耳鼻咽喉科のプライマリー疾患の診断と対応、および耳科手術、鼻副鼻腔手術、口腔咽喉頭手術、頭頸部良性腫瘍手術の経験を積むことに重点を置く。
院内カンファレンス（随時）術前、術後カンファレンス（週 1 回）医療倫理、医療安全、感染対策に関する講習会にそれぞれ年 1 回以上出席する。
学会または研修会に参加し、日耳鼻が定めた学会において年 1 回以上発表を行う。

★名古屋セントラル病院

睡眠障害の診察、検査から診断をし、適切治療法を選択できるようになること基本とし、検査結果の解析を自分で行えるよう指導し、日本睡眠学会認定医資格の取得を目指す。

先天代謝異常疾患の耳鼻科診察、検査からデータを集め検討し、学会発表、症例報告、学術論文を書けるよう指導する。

耳鼻咽喉科のプライマリー疾患の診断、検査、治療（含：手術）の経験を積むことに重点を置く。

★津島市民病院

外来診療：一般的な耳鼻咽喉科領域疾患の診療を行う。患者の訴えを傾聴する。的確な検査を実施する。できる限り正しい診断をする。各々の患者に最適な治療を選択する。

入院診療：一般的な疾患に対しては既存のクリニカルパスを適応しながらも、常時適切であるかを確認し治療を進める。稀な疾患に対しては適切な治療プランを立てて診療する。手術：一般的な耳・鼻・咽喉頭の手術の術者または助手を務める。適切な術後処置および対応を行う。

カンファレンス：毎日朝夕、上級医と情報を共有する。

院内活動：院内で開催される勉強会、講演会には積極的に参加する。

学術業績目標：学会または研修会に参加し、日耳鼻が定めた学会において年 1 回以上発表を行う。筆頭著者として学会雑誌に 1 編以上の論文を執筆する。医療倫理、医療安全、感染症対策に関する講習会にそれぞれ年 1 回以上出席する。

★松波総合病院

耳鼻咽喉科のプライマリー疾患の診断とその対応に重点を置く。専攻医は指導医とともに、外来診療と病棟診療を行う。夜間や休日の当直を行い、各種の救急疾患に対応する。

院内症例カンファレンス(随時) 術前・術後カンファレンス(週 1 回) 医療倫理、医療安全、感染対策に関する講習会にそれぞれ年 1 回以上出席する。学会または研修会に参加し、日耳鼻が定めた学会において年 1 回以上発表を行う。

★名古屋大学医学部附属病院

期間：2021 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日 研修施設：名古屋大学医学部附属病院

GIO（一般目標）：耳鼻咽喉科医としての基本的臨床能力および姿勢を身につけるために、代表的な疾患や主要症候に適切に対処できるための知識、技能、態度および臨床問題解決法の習得と人間性の向上に努める。

SBOs（行動目標）

基本姿勢・態度

研修到達目標：# 1-21 基本的知識

研修到達目標（耳）：# 22-43 研修到達

目標（鼻・副鼻腔）：# 44-64 研修到達

目標（口腔咽喉頭）：# 65-88

研修到達目標（頭頸部）：# 89-110

経験すべき治療など：

扁桃摘出術を術者として 10 例以上経験する。

鼓膜チューブ挿入術を術者として 10 例以上経験する。

喉頭微細手術を術者として 10 例以上経験する。

内視鏡下鼻副鼻腔手術を術者として 20 例以上経験する。
気管切開術を術者として 5 例以上経験する。
良性腫瘍摘出術（リンパ節生検を含む。）を術者として 10 例以上経験する。

経験すべき検査など：

標準純音聴力検査 5 例以上、標準語音聴力検査 3 例以上、ティンパノメトリー3 例以上、
自記オージオメトリー3 例以上、耳音響放射検査 3 例以上、平衡機能検査：頭位および
頭位変換眼振検査 5 例以上、温度眼振検査 5 例以上、視運動性眼振検査と指標追跡検査
5 例以上、重心動揺検査 3 例以上、
耳管機能検査 3 例以上、鼻アレルギー検査（鼻汁細胞診、皮膚テ
スト、誘発テスト）5 例以上、鼻咽腔・喉頭内視鏡検査 10 例以
上、嚥下内視鏡検査 10 例以上、嚥下造影検査 10 例以上、音声空
気力学的検査 3 例以上、嗅覚検査（静脈性嗅覚検査、基準嗅覚検
査）3 例以上、鼻腔通気度検査 3 例以上、
味覚検査（電気味覚検査、ろ紙ディスク法）3 例以上

研修内容

専攻医は病棟の 2 グループをそれぞれ 3 ヶ月以上経験し、入院患者の管理を行う。

医局カンファレンス（火曜日 18:00-20:00）

耳、鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭、頭頸部の解剖・生理を理解する。

耳、鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭、頭頸部の基本的な疾患の病態を理解する。

月に一度抄読会を行う。

A グループカンファレンス（月曜日 17:30-19:30）

B グループカンファレンス（月曜日 7:30-9:00）

頭頸部がん合同カンファレンス（化学療法部、放射線科、薬剤部：月曜日 18:00-19:30）

頭頸部外科カンファレンス（形成外科、脳神経外科、歯科口腔外科、刈谷総合病院ほか
他院：毎月 1 回）

リエゾンカンファレンス（精神科、化学療法部、薬剤部、リハビリテーション部、病棟：

毎月 1 回）嚥下カンファレンス（リハビリテーション部、病棟：毎月 1 回）医療倫理、
医療安全、感染対策に関する講習会にそれぞれ指定回数出席する。

学会または研修会に参加し、日耳鼻が定めた学会において年 1 回以上発表を行う。

筆頭著者として学会雑誌に 1 編以上の論文を執筆する。

なお、本プログラムは日耳鼻が定めた医療設備基準をすべて満たしている。

<< 参考資料（各群の手術件数合計） >>

名古屋大学医学部附属病院

	按分前（件）	按分後（件）
耳科手術	計 162 件	計 152 件
鼓室形成術	59	59
鼓膜チューブ挿入術	計 10 件	計 10 件
人工内耳手術	28	28
アブミ骨手術	5	5
顔面神経減荷術	1	1
先天性耳瘻管摘出術	1	1
外耳道形成術	7	7
鼓膜形成術	15	15
乳突削開術	35	25
試験的鼓室開放術	1	1
中耳根本術	0	0
内リンパ嚢開放術	0	0
聴神経腫瘍摘出術	0	0
鼻科手術	計 149 件	計 129 件
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	計 67 件	計 57 件
鼻中隔矯正術	11	11
鼻甲介切除術	70	60
視神経管開放術	0	0
涙嚢・鼻涙管手術	1	1
眼窩吹き抜け骨折手術	0	0
顎・顔面骨折整復術	0	0
口腔咽喉頭手術	計 230 件	計 210 件
扁桃摘出術	計 54 件	計 45 件
舌、口腔、咽頭腫瘍摘出術	計 70 件	計 66 件
口蓋垂・軟口蓋形成術	1	1
舌・口腔良性腫瘍摘出術	0	0
舌・口腔悪性腫瘍摘出術	16	16
咽頭良性腫瘍摘出術	2	2
咽頭悪性腫瘍摘出術	46	46
喉頭微細手術	計 8 件	計 8 件
嚥下機能改善手術、誤嚥防止手術、音声機能改善手術	計 33 件	計 26 件
喉頭形成術	13	13
喉頭截開術	0	0
頭頸部手術	計 191 件	計 171 件
頸部郭清術	計 103 件	計 93 件

頭頸部腫瘍摘出術	計 88 件	計 88 件
顎下腺良性腫瘍摘出術	5	5
顎下腺悪性腫瘍摘出術	3	3
耳下腺良性腫瘍摘出術	28	18
耳下腺悪性腫瘍摘出術	9	9
甲状腺良性腫瘍摘出術	3	3
バセドウ病手術	0	0
甲状腺悪性腫瘍摘出術	16	16
鼻・副鼻腔良性腫瘍摘出術	5	5
鼻・副鼻腔悪性腫瘍摘出術	7	7
喉頭悪性腫瘍摘出術	18	18
リンパ節生検	17	17
頸部嚢胞摘出術	7	7
顎下腺摘出術	4	4
食道異物摘出術	0	0
気管異物摘出術	0	0
異物摘出術（外耳・鼻腔・咽頭）	10	10
気管切開術	計 53 件	計 53 件

関連研修施設 a. NHO 名古屋医療センター、名古屋第一赤十字病院、刈谷豊田総合病院、中部ろうさい病院、小牧市民病院、市立半田病院、県立多治見病院、公立陶生病院、トヨタ記念病院、岡崎市民病院、稲沢市民病院、常滑市民病院、西知多総合病院、名古屋セントラル病院、津島市民病院、松波総合病院、関連施設（JCHO 中京病院、西尾市民病院）

	按分前（件）	按分後（件）
耳科手術	計 989 件	計 989 件
鼓室形成術	213	213
鼓膜チューブ挿入術	計 512 件	計 512 件
人工内耳手術	0	0
アブミ骨手術	12	12
顔面神経減荷術	9	9
先天性耳瘻管摘出術	106	106
外耳道形成術	4	4
鼓膜形成術	112	112
乳突削開術	124	124
試験的鼓室開放術	3	3
中耳根本術	0	0
内リンパ嚢開放術	0	0
聴神経腫瘍摘出術	4	4
鼻科手術	計 2058 件	計 2058 件
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	計 1103 件	計 1103 件
鼻中隔矯正術	280	280
鼻甲介切除術	588	588
視神経管開放術	15	15
涙嚢・鼻涙管手術	1	1
眼窩吹き抜け骨折手術	8	8
顎・顔面骨折整復術	59	59
口腔咽喉頭手術	計 2253 件	計 2220 件
扁桃摘出術	計 1822 件	計 1822 件
舌、口腔、咽頭腫瘍摘出術	計 103 件	計 98 件
口蓋垂・軟口蓋形成術	3	3
舌・口腔良性腫瘍摘出術	26	26

舌・口腔悪性腫瘍摘出術	27	27
咽頭良性腫瘍摘出術	29	29
咽頭悪性腫瘍摘出術	30	30
喉頭微細手術	計 241 件	計 218 件
嚥下機能改善手術、誤嚥防止手術、音声機能改善手術	計 22 件	計 17 件
喉頭形成術	6	6
喉頭截開術	2	2
頭頸部手術	計 771 件	計 756 件
頸部郭清術	計 102 件	計 87 件
頭頸部腫瘍摘出術	計 577 件	計 577 件
顎下腺良性腫瘍摘出術	36	36
顎下腺悪性腫瘍摘出術	2	2
耳下腺良性腫瘍摘出術	139	139
耳下腺悪性腫瘍摘出術	12	12
甲状腺良性腫瘍摘出術	32	32
バセドウ病手術	8	8
甲状腺悪性腫瘍摘出術	27	27
鼻・副鼻腔良性腫瘍摘出術	42	42
鼻・副鼻腔悪性腫瘍摘出術	11	11
喉頭悪性腫瘍摘出術	32	32
リンパ節生検	230	230
頸部嚢胞摘出術	47	47
顎下腺摘出術	26	26
食道異物摘出術	7	7
気管異物摘出術	0	0
異物摘出術（外耳・鼻腔・咽頭）	208	208
気管切開術	計 166 件	計 166 件